

神無一族の氾濫

担当 神無七郎

☆今回の「氾濫」のお題は「多重王手」。内訳は両王手と三重王手が3題ずつ。①と⑥が難解で、全解者はいませんでした。

①ばか詰 89手「野遊び」

神無三郎

「野遊び」

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二										
三										
四										
五										
六										
七										
八										
九										
	角	銀	銀	銀	香	香	香	香	香	飛
	金	歩	王	王	王	王	王	王	王	王
	金	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩

78歩、68玉、69歩、同玉、
持駒 歩3

77歩、78歩、同角、68玉、
57歩、同玉、58歩、47玉、
48歩、58玉、67角、68玉、
47歩、69玉、58角、78玉、
49角、89玉、67角、78歩、
同角、88玉、69角、77玉、
78歩、67玉、58角、68玉、
49角、58歩、69歩、67玉、
58角、78玉、49角、89玉、
67角、78歩、同角、98玉、
67角、68歩、89角、87玉、
98角、78玉、79歩、67玉、
89角、78歩、68歩、77玉、
78歩、87玉、98角、78玉、
67歩、同玉、98角、78歩、
同角、57玉、58歩、68玉、
69歩、78玉、57歩、68角、
79歩、67玉、68歩、57玉、
39角、47玉、48歩、37玉、
28角、48玉、17角、28歩、
同飛、38歩、49歩、39玉、
29飛迄89手。

野遊びやドッベルゲンガー

過(あ)はねやも (看空)

☆まずは手順を並べてください。両王手のチャンスは何回あったでしょうか？

そのうち実際に両王手をしたのは何回でしょうか？

☆本作の正解者はわずか2名。

解図の鍵は18飛。この飛は16飛でピンされ、身動きのできない状態ですが、角を17に運べば、自由に動くことができます。

☆この狙いを見抜くだけでも大変ですが、実現はもつと大変。なぜなら初形で角が筋違いに居るからです。というところは……

須川卓二角をいったん渡して取り返すのだが歩がたくさん必要。歩の数を増やすのが意外とやっかいです。

☆27手目から60手目が歩を1枚増やす巧妙な手順。61手

目67歩のところでは89角、88

玉、67歩と進めば40手サイクルの規則的な機構になります

ですが、これ以上歩を増やす必要はないので、次のサイクルへの接続は省略して収束に向かいます。

市村道生「30手頃から山場5〜7筋で、歩合の手順を濃縮した技術に感激。

☆魂は肉体を離れ野に遊ぶ：歩を稼ぐため途中の両王手はすべて回避。飛角の役割を逆転させ、最後の最後に待望の両王手を行います。

ドッベルゲンガーとは不吉な喩えですが、ソッポ行きや歩の開き王手を多用した手順が独特の妖しい雰囲気醸し出す作品です。

②マドラシばかりか 5手 神無太郎

9	8	7	6	5	4	3	2	1
				留				
				角				
				王				

(留脚) ◻ ◼ 角角香
 35角、68角、75角、48角、
 57香迄5手。

【マドラシ】同種の敵駒が互いの利きに入ると、利きがなくなる。

☆駒数無制限の贅沢な設定と対照的に、縦一線の禁欲的な配置。まずは本作の主題を簡潔に表した短評から。
 須川卓二「打つ手で三重王手」とはフェアリーならではの

すね。

☆「打」で両王手（の上を行く三重王手）を掛けるのが本作の特徴。手順全体も攻守双方で5連打となり、

「両王手は駒が動く」という常識を「打破する作品です。」

岩本修「玉方の角もマドラシ

しておかないと、最終手同角の手があつた。

☆例えば2手目79角などと受けると最終手57香に対し同角生があつて不詰。作意なら59角のおかげで受方の角が復活せずに済むのです。

山本強志「最終手で玉が3方

からスポットライトを浴びるような形で詰上り。左右対称の様式美と三重王手の機能美が見事に融合している。

☆なお、利きの消える順序を

気にされた方もいましたが、マドラシでの利きの消滅は「本来の利き」だけで決まり、順序は関係しません。

③安南ばかりか 5手 変寝夢

9	8	7	6	5	4	3	2	1
							王	王
				王				
							馬	
								馬

持駒 金桂
 44金、25玉、38桂、55玉、
 45馬迄5手。

【安南】味方の駒が縦に並び、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

☆盤上には龍と馬が2枚ずつ。

でも本当は、3枚目の龍と馬が隠れています。

西村恒雄「38桂を使った45馬で金が馬に再生した。三つの馬での王手。」

和田裕之「龍に乗せても詰むのには意味が無いと思つたが、安南らしさを出さないと詰まらないので乗せてみたら筋が見えてきた。」

☆右の短評で示唆される通り、3枚目の龍は受方の玉、3枚目の馬は持駒の金でした。玉の横つ飛びや、馬の桂馬跳びは華麗で安南らしい手順です。前局に続いての三重王手ですが、マドラシより安南の方が馴染み深いせいか、本作で初めて三重王手を体験した方も多かつたようです。

中澤照夫「三重王手を初体験。」

中村増一―多重王手のすごさに驚いた。

☆安南では4重王手も可能ですし、利き二歩無効の条件下では5重以上の多重王手も可能です。皆さんもやってみませんか？

岩本修―84王が無くて初手限定できたらいいのですが。

☆これは作者・担当者・一族の面々も相当考えましたが、これが限界でした。妙案があればぜひお知らせを！

④安南ばかり 11手 神無太郎

6	5	4	3	2	1

持駒 金桂歩

49金、28玉、38金、17玉、18歩、26玉、19桂、25玉、26歩、16玉、27金迄11手。

長谷川琴―最終形は解るのですが、早く19桂を打ちたいと焦り苦労しました。

藤原勝博―パラを見ているだけではダメで、盤駒を引っ張りだしてようやく解けました。

☆両王手に見えない両王手が決め手となる作品。3手目38金以降の5手が心理的妙手です。この手順は玉を上部に逃がす上、持駒もなくなってしまうので、歩の桂馬跳びから金歩による両王手という急転直下の収束が見えないと指せません。

須川卓二―裸玉でこの手順が眠っていたとはびっくりです。

k z―最初49金、28玉、39金、27玉、38金、26玉、39桂、25玉、26歩、16玉、27金まで11手かと勘違いしました。

☆k z氏は危うく難を逃れましたが、性能変化を見落としました。解答を書いたら必ず再チェックを！

⑤安南ばかり自殺詰 10手 神無太郎

9	8	7	6	5	4	3	2	1

持駒 飛

16飛、26飛、同飛、36角、46飛、77玉、27飛、37金、47飛、同角成迄10手。

☆最終手は利きの復元(金)、駒の成り(角)、性能変化(歩)が同時に起こる三重変化の三重王手。自駒の利きを一旦止め、機を見て一気に解放するのは「開き王手」の性質ですが、本作は性能変化でそれを行います。

西村恒雄―最後48歩がすごい働きをしている。難しかったです。

岩本修―37金合の発見に手間取りました。

☆自玉の退路が気になります。が、利きの復元を見据えた37金合が好手。9段目への脱出は歩と馬のコンビで防げるので、馬を取られないことの方が重要なのです。

和田裕之―先月号のがヒント。
歩を活かして密集。

☆加賀氏の「角4枚」の作品
ですね。中空での詰上りは
本作と通じるものがありま
す。性能変化ルールは実質
的な駒数拡張にも使えるの
で、面白い詰型がまだ多く
眠っていると思います。

⑥ 対面取禁ばか自殺詰 62手
神無七郎

6	5	4	3	2	1
					飛
					馬
		歩			王
			王	王	

1 2 3 4 5 6 7 8 9
一
二
三
四
五
六
七
八
九

39 銀、27 飛生、28 銀、16 飛生、
19 銀、27 飛生、28 銀、38 飛生、
39 銀、27 飛生、38 銀、37 飛生、
18 銀、28 玉、29 銀、19 玉、

28 銀、18 玉、19 銀、27 玉、
28 銀、36 玉、27 銀、45 玉、
18 銀、26 角生、27 銀、35 角、

36 銀、34 玉、45 銀、25 玉、
36 銀、26 玉、27 銀、17 玉、
26 銀、27 玉、17 銀、25 飛、
26 銀、18 玉、36 銀、46 角、
27 銀、26 飛、29 銀、17 玉、
28 銀、27 飛寄生、18 銀、28 玉、
17 銀、16 飛、19 銀、18 飛生、
39 銀、29 玉、28 銀、38 飛生、
39 銀、47 飛生迄62手。

【対面】敵駒と向かい合つと、
互いに利きが入れ替わる。

【取禁】詰手順中に駒を取る
手があつてはならない。

駒井信久―角が46なら2手詰
とはいろいろ試行錯誤して
から気付きました。

☆本作は長編化した2手詰。
初形で17角が46にいれば39
銀、47飛生迄。同玉は46角

が玉の性能になって逆王手
ですし、飛が生駒なので59
王と逃げることもできませ
ん。対面らしい飛2枚によ
る両王手の詰上りです。

☆角の運搬ルートは17↓26↓
35↓46。最後の35↓46が難
関ですが、序で16に待避し
た飛を更に25に移動し、銀
の横移動を可能にするのが

難問解決の鍵です。46角設
置後は再び舞台を右隅に戻
し、飛の位置も元に戻して
当初の目標だった2手詰の
形に持ち込みます。

某氏―残念ながらギブアップ
です。飛・角はもちろんの
こと、最後には歩まで動か
したのですが、閃きません。

☆某氏は惜しくも64手解。右
に戻る代わりに左辺を大回
りしても2手しか違わない

ので、この紛れを捨てるの
は難しかったと思います。

駒井氏はこの際どい紛れを
突破し、本作で唯一の正解
者となりました。お見事。

【各題の正・誤・無解者数】

- ① 2 0 22 ② 13 1 10 ③ 20 2 2
④ 15 3 6 ⑤ 8 0 16 ⑥ 1 1 22

【解答成績】(太字5名当選)

【全題正解】なし

【5題】市村道生、駒井信久、

須川卓二〔4題〕西村恒雄、

岩本修、和田裕之〔3題〕

神谷薫、k z、長谷川琴、

藤原勝博

【2題】山本強志、赤井秀雄、

原雅彦、小豆沢健、武田静

山、竹中健一、平尾一土、

山下誠〔1題〕原岡望、中

澤照夫、鈴木彊、中村増一

【0題またはコメントのみ】

安原嗣治、佐藤司